

1-01. 設計コンセプト

■基本方針

第五中学校改築にあたり、整備する教育空間の考え方を次のとおり整理します。

(1) 学習や教育の変化に対応し、主体的・対話的で深い学びができる施設

「武蔵野市立第五中学校改築基本計画」の基礎である「武蔵野市学校施設整備基本計画」では、学校改築の前提として、これからの市の学校教育に求められる目標と施策の基本的な方向性を整理しています。

そこでは、これまで大切にしてきた「生きる力」を育む教育を一層推進するとともに、子どもたちが様々な変化に主体的に向き合い、他者と協働して課題を解決していく力などを十分に身に付けられるよう教育活動を展開することとし、この理念のもと施策の基本的な考え方の1番目に「これからの時代に求められる資質・能力を育む教育」を掲げています。

このような教育理念のもと展開される学校での学びは、主体的・対話的で深い学びの視点から絶えず改善されていくものであり、一斉指導による授業だけでなく、チームティーチング、個別学習、習熟度別・少人数指導、グループ学習など、多様な指導方法、学び方が想定されます。また、ICT環境など学習ツールの変化や、学校図書館など多様な場における学びも視野に入れる必要があります。

今後は、上記の学びの多様化に対応した教育空間として、「学習や教育の変化に対応し、主体的・対話的で深い学びができる施設」が求められます。そのための学校施設整備の考え方として、「武蔵野市学校施設整備基本計画」では、「多様な学習形態を可能とする教室・教室まわり」「主体的な学習活動を支援するラーニングコモンズの整備」「ICT環境の充実」「教科教育の充実のための特別教室・特別教室まわり」「学校環境の変化に柔軟に対応できる施設計画」「インクルーシブ教育システムの構築に資する施設」を掲げています。

(2) 新しい時代の学びを実現する学校施設（学校施設整備指針改定のための検討）

文部科学省では、新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について、具体的・専門的な検討を行うため、「新しい時代の学びを実現する学校施設検討部会」（以下、「部会」とする。）を設置し、検討を進めています。

「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について 中間報告」（令和3年8月）によると、新しい時代の学びを実現する学校施設の姿として、以下の”Schools for the Future”が掲げられています。

- ”Schools for the Future” 「未来思考」で実空間の価値を捉え直し、学校施設全体を学びの場として創造する
- ・ ICTの活用などにより、学びのスタイルが多様に変容し、校内のあらゆる空間が子供たちの学びの場となる可能性を秘めている。学校施設は、教科等のみならず、給食や清掃等の課外活動など、全人的な教育を提供する場、子供たちの愛着・誇り・感謝の気持ちを育む場ともなり、それは教室に閉じるものではない。
 - ・ 子供たちがともに集い、学び、生活する実空間として、また、他者と協働し、直面する未知の課題に対して学び合い、応え合う共創空間として、どのような学びを実現したいか、どう学びに対応するか、関係者が、新しい時代の学びづくりのビジョン・目標を共有しつつ、「未来思考」をもって実空間を捉え直す必要がある。
 - ・ 子供たちにとって「明日また行きたい学校」となるために、また、そこに集う人々にとっても「いきいきと輝く学校」となるために、学校施設全体を学びの場として捉え、魅力ある学び舎を創造していく必要がある。

新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方として、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間を実現する」ことが示され、そのためには、「学校施設全体を学習に利用するという発想に立ち、児童生徒の主体的な活動を喚起し、求められる学び・活動の変化に柔軟に対応できる空間」を整備していくことや、空間相互の連続性や一体性を確保すること、時代の変化に対応し、将来の学習内容・学習形態の変化に応じて変更可能な室空間、室仕上げとすることなどが重要とされています。また、多様な学習活動に対応できる空間の具体的な整備の事例として、多目的スペースの設置や普通教室に可動式の仕切りを活用すること、校内・屋外の様々な空間や異なる教科ゾーンと有機的に連携するために、異なる教科ゾーンを連携させ、より幅広い教科等横断的なゾーンとして機能させることなどが示されています。さらに、多様な学習・活動に対応する観点から、活動に対応して自由に場所を選べる空間を設けたり、個人で集中したり、オンラインの活動を快適に行うことができる小空間を設けることも有効とされています。

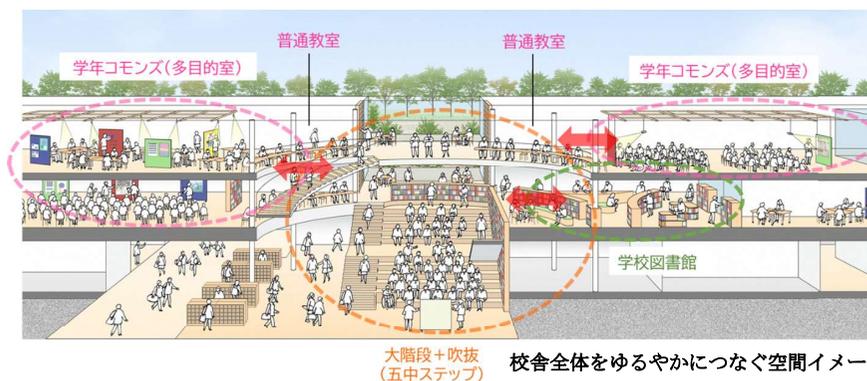
学校図書館を核として読書・学習・情報センターとしての役割を持たせる「ラーニングコモンズ」を整備し、ICTを活用することで、調べる、まとめる、発表するなどの学習活動が効果的・効率的に行えるとされ、どの教室からも利用しやすいよう、図書館を学校の中心に計画し、より一層の活用を図ることで、各教科における調べ学習での活用や、子どもたちの自主的・自発的な学習を促すことが可能とされています。

(3) 校舎全体をゆるやかにつなぐ学びの空間整備

これらの国の動向も踏まえ、(1)「学習や教育の変化に対応し、主体的・対話的で深い学びができる施設」を具体化していく設計では、「校舎全体をゆるやかにつなぐ学びの空間整備」を目指し、主体的・対話的で深い学びの活性化、個別最適な学び・協働的な学びを促す空間づくりを進めます。

具体的には、学びの多様化に対応した教育空間として、特定の教科にとらわれない創造的活動を行う空間としての活用もでき、教科等横断的な学習にも対応させるため、空間を構成する主要要素のうち、読書・学習・情報センターとしての役割を持つ学校図書館と多目的室からなる開放的なラーニングコモンズを中心に配置し、さらに、普通教室、特別教室などの学びの空間とつながるようサテライトコモンズ、学年コモンズ（多目的室）を置くことで校舎全体をゆるやかにつなぎます。

開放的なラーニングコモンズを中心に配置することで、学びとの出会い・興味・楽しさを生み出すとともに、交流・刺激・遊びを誘発することが期待されます。さらに、多様な空間を連続的に配置することで、生徒自らが学びの場を見つけ主体的な学び方を可能にするなど、学びの多様化に対応した教育空間を実現します。



校舎全体をゆるやかにつなぐ空間イメージ

1-01. 設計コンセプト

■全体空間構成の考え方

『校舎全体をゆるやかにつなぐ **学びの空間**』

“主体的・対話的で深い学び”の活性化 “個別最適な学び・協働的な学び” 選べる学びの空間

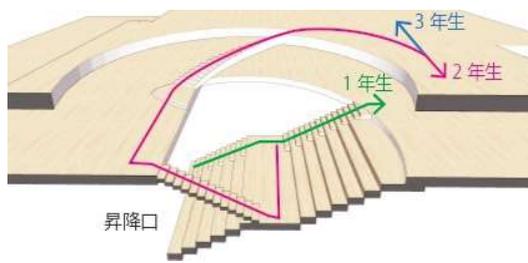
- ・ 学校図書室+多目的室を“**ラーニングcommons**”として、**学校の真ん中に、開放的に整備**
- ・ 『ラーニングcommons』を中心とした **学びの空間を連続**させ、学びの“**重なり**”をつくる
- ・ 『重なり』が日常生活の中で、“**学びとの 出会い・興味・楽しさ**”を生みだし、交流・刺激・遊びを誘発
- ・ 多様な空間の連続的配置により、“**生徒自らが学びの場を見つけられる**”

『commons』とは・

“**集まる場所**”、“**共有する広場**”を意味し、“**生徒の自主的・主体的な活動を促す場**”という意味も含まれます。

(1)動きのある学びの空間づくり

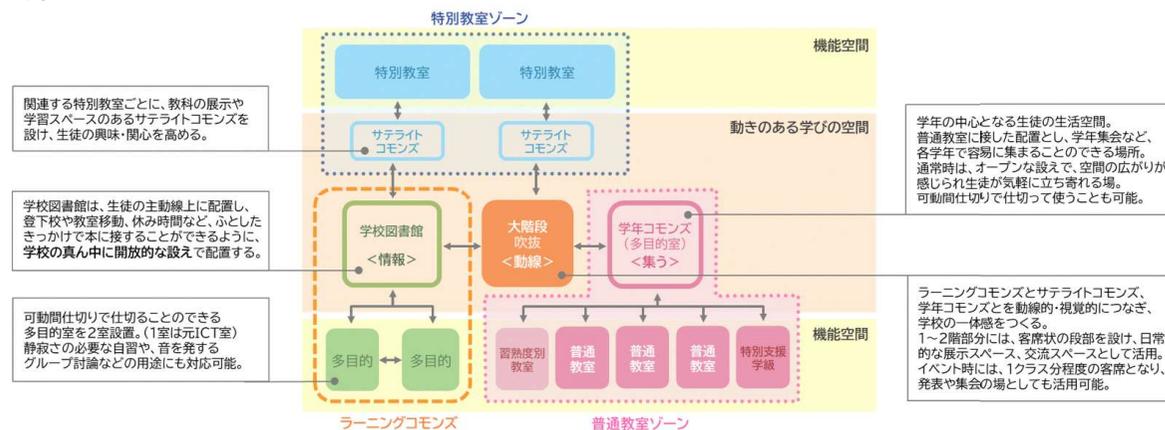
- ・ 開放的なラーニングcommons、学年commons、生徒の主動線となる大階段（五中ステップ）を校舎中央に配置し、廊下も含めて一体的に整備します。
- ・ 中央の五中ステップには吹抜をつくることで各フロアをつなぎ、学校全体を学びの空間として連続させます。縦にも横にも空間をつなぐことで、生徒の様々な学習活動、日常生活がよく見え、見る・見られるの関係からより自発的な学びを促すような空間を目指します。
- ・ ラーニングcommonsに近接して、開放的な設えのサテライトcommonsを設けます。サテライトcommonsは、各特別教室と連携しながら、生徒のさらなる興味を喚起する展示、学習スペースです。
- ・ 生徒の主動線である五中ステップでは、全校生徒の目にとまる好位置を活かし、1階と2階の間に客席状の空間をつくることで、作品展示や学習成果の発表といった特徴的な学習空間とします。
- ・ 五中ステップは、1階踊り場から2階への動線を確保します。すなわち、2階南側へ至る1年生の動線と2階北側へ至る2・3年生の動線を分離し、混雑を避ける工夫を行います。



動線を分離した五中ステップ

(2)各教科の学習活動を支える機能空間づくり

- ・ 普通教室、特別教室等の各教室（機能空間）は、動きのある学びの空間を中心として、大きくは南側に普通教室ゾーン、北側に特別教室ゾーンを配置します。普通教室ゾーンは、校舎の端部に配置することにより、他学年の通過動線の無い落ち着いた環境とします。
- ・ 最も滞在時間の長い普通教室は、学習の場であるとともに生活の場でもあり、南面配置することで明るく開放的な空間とします。校庭を見渡せる場とすることで、学校の中で今自分の居る場所を把握することが容易となります。
- ・ 一方、特別教室は直射光の少なく安定した採光の得られる北側に配置します。ただし、音を発する音楽室は、近隣への影響を最小限にするため、南側へ配置します。
- ・ 普通教室は学年commonsに隣接させ、特別教室はサテライトcommonsに隣接させることで、開放的で動きのある学びの空間と機能空間の連携を図ります。
- ・ 習熟度学習室は普通教室の並びに配置し、普通教室と同じ設えで計画します。フレキシブルな利用、将来変化への対応が容易な計画とします。
- ・ 普通教室、特別教室、ラーニングcommons内の多目的室は、独立した利用ができるよう廊下との間に間仕切りを設けます。普通教室や多目的室は全開放を可能とする多連引き建具、特別教室は収納量確保に配慮して腰上をガラスとした固定式間仕切りとします。
- ・ 機能空間と廊下の間仕切りにガラスを用いることにより、廊下やラーニングcommons等の校舎中央部分を明るくする配慮を行います。
- ・ 通常の学級での学習におおむね参加でき、発達障害等、個別の障害の状態に応じて一部特別な指導を必要とする生徒への指導を行う特別支援教室・通級指導学級については、指導を受ける際に移動に負担のないこと、全生徒に障害理解の啓発を促す配置とします。
- ・ 特別支援学級については、通常の学級との交流及び共同学習を実現するため、日常的に生徒同士の交流が深められるよう、連続性をもたせた配置とします。
- ・ トイレについては、普通教室ゾーンに1ヶ所、特別教室ゾーンに1ヶ所配置します。普通教室ゾーンのトイレは各学年に専用とし、日常利用に際しての生徒の心理的配慮を行います。



全体空間構成

1-01. 設計コンセプト

■主な学習空間の考え方

(1)ラーニングcommons

学校図書館は、読書センター、学習センター、情報センターとしての機能を持ち、これらの機能が発揮され、「学校教育の中核」としての役割も果たすことが期待されています。「第2次武蔵野市子ども読書活動推進計画」では、「読書」のとらえ方について、紙の書籍に限らず、電子書籍やインターネット情報も含むこととしており、「読書習慣を身に付け、豊かな心を培う」「多様な読書を通じて自ら学ぶ力を身に付ける」「情報を適切に読み解き、活用できる力を育む」を基本方針に定めました。

これらの方針も踏まえて、主体的で探究的かつ協働的な学習活動を支援する場として、学校図書館の機能に、ICT機器を活用できる環境を兼ね備え、集団での調べ学習や自習等に使用できる多目的室を併設したラーニングcommonsを整備します。

ラーニングcommonsは、図書、ICT機器、視聴覚教育メディアその他学習に必要な教材等を管理し、様々な情報を収集できる場所としうえて、教育活動に応じた活用ができるよう、可変性を持たせた空間とします。各教科の学習活動等において効果的に活用することができるよう、利用のしやすさを考慮し、生徒の活動範囲の中心的な位置に配置します。

① 学校図書館

- ・生徒の「もっと知りたい」「もっと学びたい」という主体的な学びを実現し、教員の授業をより一層効果的なものとするため、いつでもだれでも気軽に立ち寄れる開放的な学校図書館を整備します。
- ・学校図書館は五中ステップに隣接した2階西側に配置し、五中ステップを取り込むような一体的かつ開放的な計画とします。

② 多目的室

- ・多目的室は、学校図書館に隣接した2階南側に配置します。普通教室2室分の広さを確保し、可動間仕切りで閉められる設えとします。

(2)普通教室

一斉指導による学習以外に、チームティーチングによる学習、個別学習、習熟度別・少人数指導による学習、グループ学習、一人一台端末の導入など、学び方が多様化しています。固定学級だけではない、弾力的な集団編成に柔軟に対応できる教室周りの設えとします。

① 多様な学習形態を可能とする教室・教室まわり

- ・普通教室については、多様な学習内容・学習形態および生徒の主体的な活動を支援し、豊かな創造性を発揮できる空間として計画します。
- ・普通教室は、廊下側を可動間仕切りとして開放的な設えとしながら、十分な掲示スペース、収納スペースを確保します。
- ・多目的な用途や複数学年による学習等で使用できる学年commons（学年多目的室）や習熟度学習室を、普通教室と連携しやすい場所に整備します。

② 学年commons（学年多目的室）

- ・普通教室に面して2教室分程度の多目的なスペースを設け、普通教室との連携が容易な学年commonsとして整備します。
- ・開放的な設えとし、生徒同士や先生との交流の場となるほか、個別学習、グループ学習、学年や複数の学級での集会等、多様な利用形態に対応できます。

(3)特別教室

教科ごとの特性を踏まえた配置、設えにより、普通教室では対応できない専門的な学習内容に適切に対応します。また、各教科に関する生徒の興味・関心を高め、それぞれの個性を尊重し、伸ばすことのできる空間づくりを目指します。

① 教科教育の充実のための特別教室・特別教室まわり

- ・複数の教員等の指導など多様な学習形態への対応及びラーニングcommons等との連携を考慮します。
- ・特別教室は、十分な水回りや収納、掲示スペースに配慮しながら、生徒の作業に支障のない広さを確保した計画とします。
- ・特別教室の配置にあたっては、関連する教室を隣接させたり、防災上の観点から家庭科室を体育館に近接、防音上の配慮から音楽室をなるべく隔離配置したりするなど、各教科の特性に応じた位置とします。

② サテライトcommons

- ・関連する特別教室ごとに、教科の展示や学習スペースのあるサテライトcommonsを整備します。
- ・サテライトcommonsは開放的な設えとし、生徒の目につきやすく気軽に立ち寄れる場とします。
- ・教科の特徴ある展示や生徒の学習成果等の掲示を行うことで、各教科への興味・関心を喚起します。



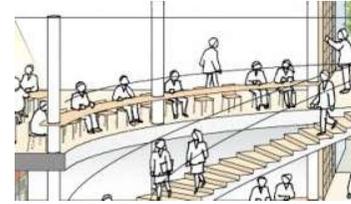
1-01. 設計コンセプト

■「校舎全体をゆるやかにつなぐ学びの空間」使い方イメージ

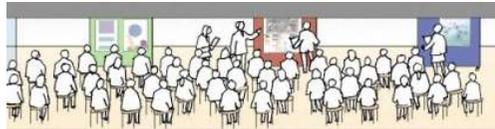
“主体的・対話的で深い学びの活性化”、
 “個別最適な学び・協働的な学び”のための
 連続した多様な空間で生徒が主体的に学ぶ仕掛けを生み出します。



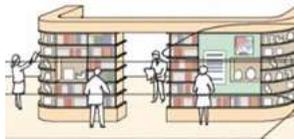
自習ラウンジ
 グラウンドの見える落ち着いた場所で自習



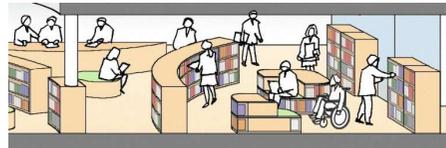
カウンター
 お気に入りのカウンター席で落ち着いて勉強
 五中ステップや図書館の様子も見渡せる



学年 commons
 学年図書コーナーで話題の本に出会う
 友達にもおすすめ
 隣のクラスと合同の学年集会に使える



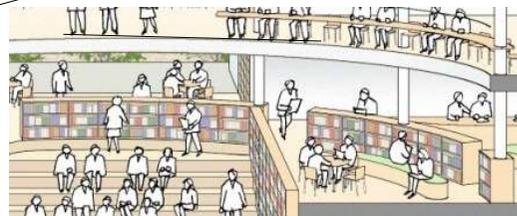
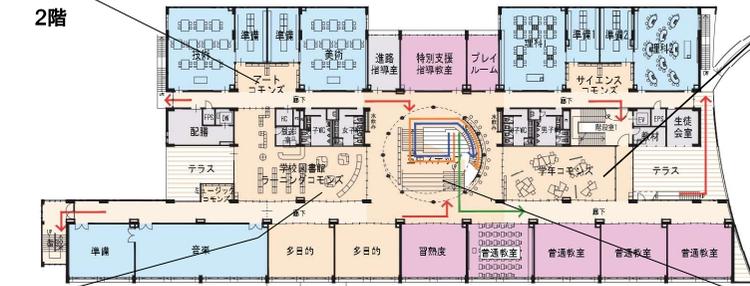
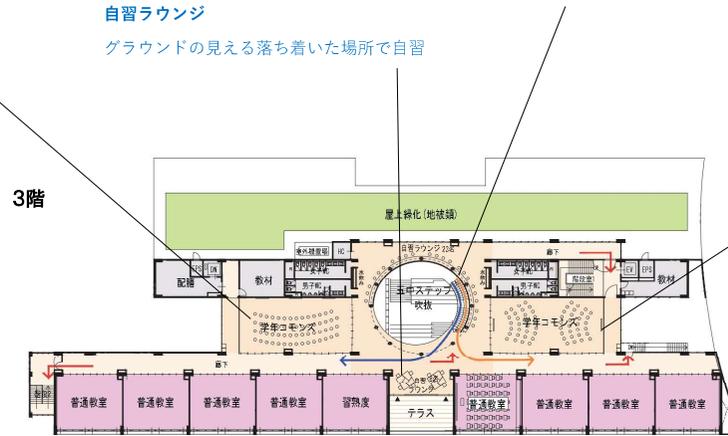
アート commons
 美術や技術の授業でみんなが作った
 作品を鑑賞



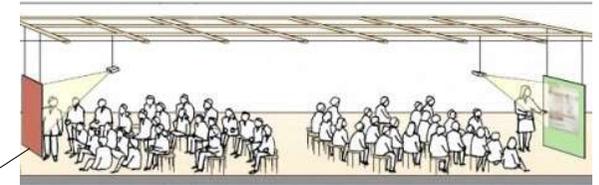
ラーニング commons
 書架内の椅子では、友達と意見交換をしながら、
 タブレットや本で参考文献を探す



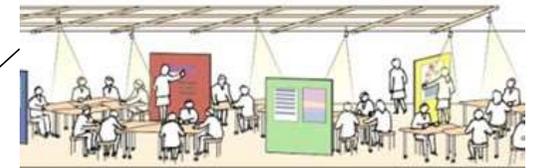
ラーニング commons
 グループで集まり図書館サポーターに相談
 閲覧や自習にも使えるコーナー



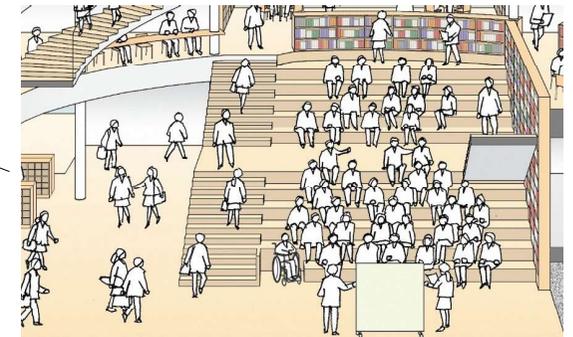
五中ステップ
 誰でも気軽に立ち寄れる図書スペース
 本を手に取り階段部分で友達と意見交換



学年 commons
 教室と学年 commons を使った習熟度別授業



学年 commons
 教室では入りきらないグループ学習を展開
 教室と近くて使いやすい



五中ステップ
 大きな階段を使って学習成果の発表